

PRESS RELEAS

報道関係者各位

2017年8月28日

## 一般社団法人 日本マテリアルフロー研究センター(JMFI)が 第2回総会・懇親会を盛大に開催

国交省・重田審議官、経産省・小瀬審議官が祝辞、ニトリ・松浦役員ら理事も挨拶

一般社団法人 日本マテリアルフロー研究センター

〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2-47-6 202

TEL: 03-3988-2671 FAX: 03-3980-6588

Eメール: info@ryuken-jmfi.or.jp



一般社団法人 日本マテリアルフロー研究センター(JMFI)は8月25日、東京・千代田区の如水会館で第2回定時総会を開催した。JMFIは昨年11月18日の設立総会をもって会員52社で本格的な活動を開始したが、現在では74社の陣容となり、研究会活動などを順次進めてきた。当日の理事会・総会では平成28年度の事業報告・決算報告が行われ、いずれも承認された(別紙資料を参照)。

続いて同会館で開催された懇親会には、参加会員のほか多数の来賓を迎えた。国土交通省からは物流審議官の重田雅史氏、総合政策局国際物流課長の町田倫代氏、経済産業省からは大臣官房審議官(商務流通・国際博覧会担当)の小瀬達之氏、商務情報政策局 商務・サービスグループ 物流企画室室長補佐の百瀬智史氏が出席したほか、物流関連団体の代表、JMFIが主催するアジア・シームレス物流フォーラムの企画・実行委員など関係各方面から計約100名が参加した。

冒頭、大庭靖雄 JMF I 会長の挨拶の後、来賓の重田氏と小瀬氏の両名からの祝辞、さらに会員を代表して JMF I 理事の株式会社ニトリホールディングス上席執行役員（株式会社ホームロジスティクス代表取締役社長）・松浦学氏の挨拶と乾杯の発声をもって、歓談に移った。また中締めには同じく JMF I 理事で株式会社三井倉庫ロジスティクス取締役執行役員の恵谷洋氏氏(同)が登壇し、一本締めで会を締め括った。

懇親会における各氏の挨拶内容(要旨、発言順)は次の通り。

### 【大庭靖雄 JMF I 会長】

当研究センター(JMF I)設立の狙いは、「マテリアルフロー（物流）を核としてロジスティクス・サプライチェーンの課題を智恵で解決していこう」というもの。大きなサプライチェーンの中であって、各社はそれぞれロジスティクスをどう改善するか、どう競争力を高めるかに取り組んでいる。しかし自社にだけ最適な解を求め続けていくと、結果的に不都合が生じてしまう。トラック業界におけるドライバー不足もその一面だろう。

JMF I はロジスティクスの改善に同じ志を持つ者同志が、WIN-WIN の改善を見出すため、協働研究のプラットフォームとなることを目指している。発足時の 52 社が現時点で 74 社にまで増えた。プラットフォームの土台が次第にできてきたと思う。

政府は 7 月 28 日、新しい総合物流施策大綱を閣議決定された。「強い物流」を作り上げていくため、第 1 に「つながる」というキーワードを掲げ、サプライチェーン全体の効率化を進め、価値創造に資する物流への変革を目指すとした。競い争う「競争」から、共に創造する「共創」に変えることで、全体最適化を目指すという方向付けがされている。

これは当研究センターの目指すところと軌を一にしており、今回の大綱によってわれわれの活動も背中を押していただいていると、大変嬉しい思いがしている。まだ設立総会から 1 年に満たず、成果を生むのはこれからとなるが、これからも政府としっかり連携しながらロジスティクスの改善という成果を目指して活動を進めていくので、皆様のお力添えをいただきたい。



大庭靖雄・JMF I 会長



重田雅史・国交省物流審議官

### 【重田雅史 国土交通省物流審議官】

大庭会長は JMF I の成果が生まれるのはまだこれからと仰ったが、すでに 1 つの実績がある。昨年、前国土交通大臣の太田昭宏衆院議員から私に、大庭会長や JMF I について問

い合わせを受けた。月刊マテリアルフロー誌上で大庭会長と対談するので説明して欲しいということだった。私は説明に伺ったが、この対談で太田議員は、物流は重要な産業であり、運送や倉庫、道路整備、また経済産業省の行政など、それらを別個に取り上げるのではなく、皆が集まってそれをインテグレートすることで価値が生まれるものではないかと仰っていた。対談が掲載された月刊マテリアルフロー 2017年2月号を拝見すると、非常に良くまとめられており、十分に実績になっていると思う。

太田議員は、これまで伝統的な物流の知見やノウハウが日本経済を支えてきたが、労働集約的な形で若干疲れてきたのであれば、IT、ベンチャーなど新しい人たちに入って来てもらい乗り切っていくべきではないかとも語っていた。大庭会長も、JMFのプラットフォームがあればそういう智恵が生まれてくると、その意義を指摘された。

会長には総合物流施策大綱にも触れていただいた。これからの4年間の物流施策をまとめたものだが、直近で苦しい問題は労働力の課題だろう。今の7,700万人の生産年齢労働人口は、あと25年経てば2,000万人減る。今のドライバーの有効求人倍率は2.6だが、これが1.0に戻ることはない。ならば現場の生産性をどう上げていくか。そこに新しいテクノロジー、イノベーションをもって、皆で変えていくことで初めて持続可能なものになり、WIN-WINになるのだと思う。

物流の持続可能性について疑問が持たれる時、最近では通販業者が悪く言われることもあるが、新しいビジネスモデルを展開して消費者のニーズに応えると、副作用も出る。誰かが一方的に悪いのではない。皆それぞれ懸命に仕事をする中でどこかに無理が生じている。その無理の部分の一つひとつ、柔らかくしていくということが重要だ。今のシステム、ビジネスモデル、インフラ体系を、2020年を目指して少しずつ工夫して変えていくことで、「強い物流」が生まれるのではないかと思う。JMFには、そうした新しい智恵の出るプラットフォームとして、ますます活躍いただくことを期待している。

#### 【小瀬達之 経済産業省大臣官房審議官】

2期目を迎えたJMFの目的は、物流の全体最適化に向けて、次世代のシステムを連携させ、WI-WINで作っていかうということだと理解している。経済産業省も新たな技術でサプライチェーンの最適化を目指しているが、新技術を効果的に活用するには連携や協同が必要になる。

経済産業省は今年春、「コンビニ電子タグ1000億枚宣言」を策定した。大手コンビニ5社と合意して、1枚1円を実現するという留保条件付きではあるが、2025年までに全商品に電子タグ(RFID)を付ける。タグを1円にするためには研究開発に加え、コンビニ以外にスーパーやドラッグストアにも輪を広げ、より多くの枚数が使われなければならない。普及には電子機器メーカーの協力や、タグgingでは消費財メーカーの了解も必要だ。宣言の実現のためには連携、WIN-WINが絶対に必要になる。そのためには電子タグの効果、メリットを丁寧に示していくことが必要だと思っている。

経済産業省は第4次産業革命、AI、IoTの旗も振らせていただいているが、物流の足元を見ると非効率的な慣習が多く残り、機械化の遅れ、IT化の遅れなど物流のイノベーションの妨げになりかねない問題となっている。先端技術を使わなくても連携、協同によって解決できることがまだまだある。

JMFIの発足前から、流通研究社では「アジア・シームレス物流フォーラム」を開催し、大勢の来場者を集め、物流の発展のために議論を重ね、情報発信をしてこられた。2期目を迎えてJMFIの体制を整備・強化し、ますます取組みを強化されようとしている。実態に即した多様な智恵を活かし、将来を見据えた研究と情報発信を積極的にしていただくことを期待しており、経済産業省としてもぜひ応援していきたいと考えている。



小瀬達之・経産省大臣官房審議官



松浦学・ニトリホールディングス上席執行役員

#### 【松浦学ニトリホールディングス上席執行役員／JMFI 理事】

私がニトリホールディングスに入社して早3年、来た時からニトリグループの中でも「宇宙人」と言われているが、これは私にとって褒め言葉で、嬉しく思っている。JMFIにおいても同様で、新参者としてひと言だけ言わせていただくと、諸先輩方はすべて正しい話をされていると思う。物流・流通関連分野には多くの老舗団体がある中で、JMFIという新しい団体を立ち上げ、新しい取組みを進める決意をしたことに価値があると思う。

日本はベンチャーが生まれにくい国といわれるが、予定調和の中に収まることなく、無理なものは無理と言える、そういうフィールドを作ることが大事だ。会長はJMFIの実績がまだこれからと言われたが、この何年かでイノベーションを生み出すことに、私も少しでも貢献できたらと思っている。

物流は我慢強い業界であるようだが、いつまでも我慢せずに、今の体勢のままで無理なものは無理と言って、新しい団体が新しいことをやる。社内でも他業界に対しても声を上げ、日本の産業界をもっと近代化し変えていく。今日の総会はその1年目の節目ということで、乾杯したい。

#### 【恵谷洋三井倉庫ロジスティクス取締役執行役員／JMFI 理事(非常勤)】

JMFIに参加させていただくに当たって私自身、サプライチェーン・マネジメントの本質とは、マクロとミクロの両レベルで受給をマッチングしていくことではないか。ロジスティクスは縦割りで最適化されるものではなく、横の連携とシェアリングが必要ではないか。JMFIの場ではそれを研究するだけではなく、実践できるのではないかと——そんな思いを込め、これまで活動に取り組みさせていただいてきた。

研究会も始まったばかりで具体的な結果が出せるのはこれからとなるが、JMFIを、社会に今こそ求められているこのような研究ができる場にしていきたいと思っている。



恵谷洋・三井倉庫ロジスティクス取締役  
執行役員



懇親会の模様

**【お問い合わせ先・写真データの申込み】**

一般社団法人 日本マテリアルフロー研究センター

〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2-47-6 パレス南池袋 202

TEL: 03-3988-2671 FAX: 03-3980-6588

Eメール: [info@ryuken-jmfi.or.jp](mailto:info@ryuken-jmfi.or.jp)